

学生図書委員だより

発行 二〇一〇年七月
編集 学生図書委員

No.17



「感覚で読めるものも多いんです。たとえばこんな感じ。」

せじなさと淋しさの違い問うきみに口づけをせり「これはせじなさ

田中章義

きゅん！ときますよね、この歌。そう、その名の通り、まさしく短歌は「短い歌」なのです。じゃあ、「うちはどこかな？」

束縛をするならもともと柔らかいシルクのリボンで縛ってほしい

久保田奈緒子

わあ、ってかんじですよ。では

これは？

昨日違い今日違うときに君が言う「久しぶりだな」そう久しぶり

俵万智

どうでしょう、これでも短歌って難しいって思います?? 『サラダ記念日』が爆発的に売れただけあって、やはり俵万智さんの歌は読みやすい筆頭です。でもね、同じ作者でもこういう歌もあるんだよ。

焼き肉とグラタンが好きという少女よ私はあなたのお父さんが好き

俵万智

なんて怖い！ そう、これも「短歌」の面白さです。たった三十一文字しかないのに、その一つ一つが違った「作品」なんです。だから、たくさんの「作品」を短時間で読んで作者の色々な面を見ることができてくるのです。面白いですね。

の面白さ



大特集 あなたは短歌を知らないらしい

さて、短歌って面白いかも、と

いう気分になってきたあなたに、おすすめめの短歌入門本を紹介しましょう。まずは『ウタノタネ』(天野慶)。いつでもどこでも、誰でも！ 短歌の「わかる」よりも「好き」をよりプッシュした一冊で、著者自身の歌もわかりやすく、共感できるものが多いので初心者におすすぬ。

日溜りに置けばたちまち音たてて花咲くような手紙が欲しい

天野慶

もうひとつは『短歌はじめました。』と『短歌があるじゃないか。』

(澤田康彦、穂村弘、東直子)です。

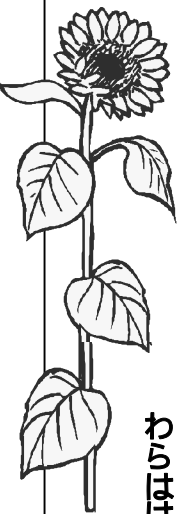
「猫又」という歌会のメンバーが作った歌を、プロの歌人がコメントするという作りで、対談形式になっているのでとても読みやすい。穂村さんは最近、エッセイストとして大活躍なので、知っている人も多いのでは？

サバチの象のつんぼを聞いてくれ

穂村弘

だるいせじなさいわいさみしい

うーん、穂村さんの歌は、短歌としてはかなり異質なほうなので、彼の作品自体は入門には向いてないですね。(笑)。



たとふれば心は君に寄りながら わざは西へは左様なじ

紀野恵